

新人候補、宜野湾市を巻き添え・犠牲に？

国との裁判に突進する翁長県政と「固い握手」

やっと本格化した街づくり
ストップしないかが心配

宜野湾市長選挙の新人候補のデビューは鮮烈なポスターでした。あの翁長雄志知事と固い握手をしたものが大々的に「電柱」に張り出されたからです。「寄らば大樹の陰」と言うのでしょうか、しかしその大樹は、いよいよ国との裁判闘争に突入しました。翁長知事と新人候補が「固い握手」をしているということは、二人三脚で市政を担いたいということでしょう。しかし、我々の胸には不安が去来します。宜野湾市が、政府と県との対立に巻き込まれ、せっかく本格化した街づくりが後退してしまわないか、という点にほかなりません。

もう革新市政二七年間
街づくり停滞再現はご免だ

振り返ってみれば、宜野湾市には過去、二七年間革新市政の時代がありました。その間、政府と対立した革新市長は、宜野湾市の街づくりで周辺市町村に大きな後れを取り、悔しい思いをしたことが忘れられません。

北谷町は美浜地域にアメリカンビレッジを作り、嘉手納町は防衛施設庁（当時）を誘致、那覇市は皮肉にも「仮面をかぶった保守」時代の翁長知事が新都心を建設、また奥武山球場を防衛庁予算で建て替え、浦添市は立派な市庁舎とスポーツ施設を建設したのです。

しかし宜野湾市にはコンベンションエリアが設置されただけでした。市庁舎や社会福祉協議会の建物は老朽化し、地域住民の福祉向上の拠点となる公民館の改築、さらには由緒ある普天満神社の門前町構想にもまったく着手できませんでした。



仮面「保守」の知事
新人候補を革新に染める

しかしこうした閉塞した街づくりは、三年前から改善されてきたのではないのでしょうか。その理由は、思想・信条を理由に米軍や政府とは交渉しないとの立場を捨て去ることが出来たからにほかなりません。

政府と激しく対立する翁長知事と「固い握手」をする新人候補は、実質上の革新政治家となるしかありません。仮面「保守」となり、政府との良好な関係を持ちながらの交渉が出来なかった革新市政と、何ら変わりようがありません。

ここまで政府と対立する翁長県政に対し、来年度も多額の予算が政府から交付される保障はないと考えるのが常識的でしょう。



シャッター通りとなった商店街

真実ニュース

No.5 発行：真実を求める宜野湾市民の会
連絡：070-5536-3868(代表)

宜野湾市、着々と進む街づくり 2014年に都市成長力で全国一位

争点は「基地問題」に非ず、「街づくり」
知事・新人候補に市民感覚とのズレ

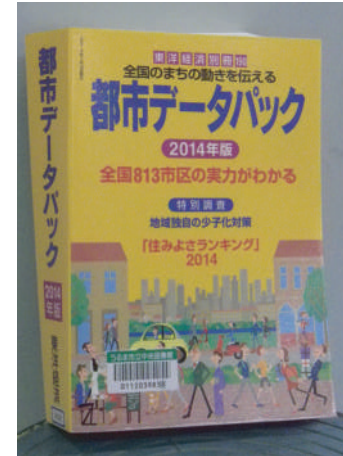
何とも驚くべきチラシが配布されました。それは、今度の宜野湾市長選挙の争点で、「基地問題」であるという新人候補側のチラシです。市長選挙の争点は、「街づくり」であるべきであって、なぜ宜野湾市以外の課題である基地問題が争点になるのでしょうか。

なんとも

理解しがた
い主張です。

しかしよく
考えてみる
とその理由
は、翁長県

政の主張を通すために、宜野湾市長選挙を利用しようとしているから、との結論になりそうです。翁長・新人候補の側に市民感覚とのズレが生じ始めたと言えるのではないのでしょうか。



それでは「街づくり」はどうでしょう。現市政が誕生した二〇一二年から、宜野湾市の街づくりは急激に発展しました。それまでは都市成長力全国七八七都市中、一三三位（二〇一〇年）に過ぎませんでした。しかし二〇一三年には五位に急浮上し、ついに二〇一四年には全国一位となったのです。

これは経済誌として有名な『東洋経済』が毎年発行している『都市データパック』の調査によるものです。成長力とは人口や世帯数、事業所数など一々の指標をデータ化して全国七九一の市や区を比較したものです。

この全国一の成長力を達成した現市政を、使い古しの街づくりを持ち出す人々に変えるという選択肢はないのでしょうか。

新人候補の街づくり構想
使い古しプランの陳列棚のよう

たとえば、新人候補が打ち出している街づくりを見てみましょう。シンボリックなものとして普天間飛行場跡地にランドタワーを作り、周辺が見渡せるようにするといえます。しかしこのランドタワー構想は、過去、何回も宜野湾市長選挙において、出ては消えた構想です。言わば、使い古しの古着のようなものに過ぎません。

翁長知事の主張を「証明」する
ことに利用される宜野湾市長選

新人候補のチラシでは、まるで、翁長県政の主張を無理やり、宜野湾市長選挙で「証明」しようとするかのような主張が繰り広げられています。このことに対し宜野湾市民として、憤りを感じざるを得ません。宜野湾市長選挙は宜野湾市民の将来を決める選挙であって、翁長知事のためにある選挙ではありません。

宜野湾市のことは
宜野湾市民が決める

新人候補は宜野湾市民でありながら、そうした憤りを感じないのでしょいか。宜野湾市のことは宜野湾市民が決める、そうした姿勢を断固として示し、翁長県政の政争の具として、宜野湾市長選挙が利用されないよう、きっぱりとした態度を見せようではありませんか。



成長力のけん引となっている真志喜地区